令和8年熊本地震

おかやまDMAT 活動報告

― 宇城圏域における DMATコーディネーター活動 ―

発表者 岡山赤十字病院 医師 齋藤 博則

業務調整員 石橋 真実

活動概要



写真：出動・移動の様子 ／ 現地での活動風景

出動期間	令和8年7月31日（金）要請受信 12時／出動 14:30 岡山駅発～8月8日（土）19:30 病院着
現地活動	8月1日（土）熊本県庁にて活動開始 ～ 8月7日（金）19時 活動終了・引継ぎ
役 割	熊本県 宇城圏域 担当 DMATコーディネーター
派遣構成	岡山赤十字病院 医師 1名 ・ 業務調整員 1名
活動地域	宇城圏域（宇城市ほか） 拠点：宇城保健所内 活動拠点本部

SECTION 03

被災地・現地の状況

8/1 時点 ／ 宇城圏域





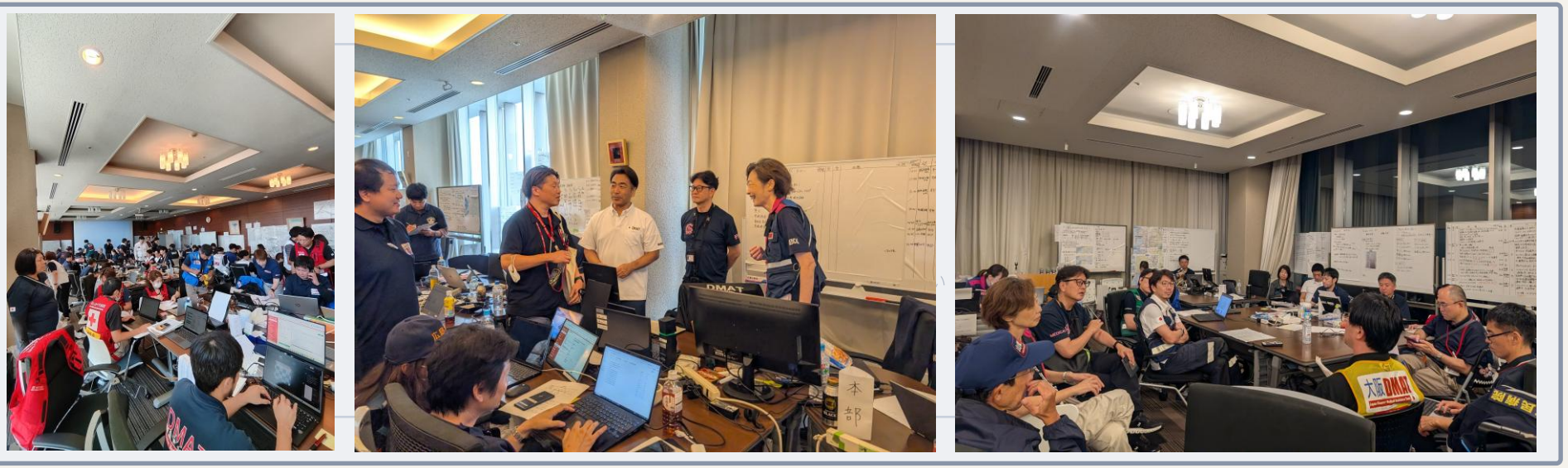


写真：避難所・被災地の状況、仮設トイレや物資支援の様子

- 宇城圏域は急性期対応から、地域保健・福祉を含む支援調整体制への「移行期」にありました。
- 宇城保健所内の保健医療福祉調整本部は、限られたスペースと人員で多数の調整業務を担い、本部機能の整理・再構築が必要な状況でした。
- ライフラインは、通水率 40%以下・下水利用不可（仮設トイレ）、電力は復旧するも不安定で、たびたび停電し冷房の効かない環境でした。
- 避難生活の長期化を見据えた支援体制づくりが、喫緊の課題でありました。

活動拠点本部の運営支援・機能再構築

8/1 ～ 8/3 ／ 宇城保健所



写真：活動拠点本部での調整・ミーティングの様子

- 熊本県庁の指示により宇城圏域を視察し、宇城保健所の活動拠点本部の運営状況を確認いたしました。
- 新規参集の DMAT とともに、本部機能を再構築いたしました。
- J-SPEED 入力および地域医療機関調査の実施を上位本部である活動拠点本部が置かれている地域支援班へ依頼し、地域医療ニーズ把握の体制を整備いたしました。
- 宇城市保健師主催の会議に参加し、DMAT リエゾンの派遣を決定いたしました。

行政・支援団体との連携強化

8/2 ～ 8/5 ／ 宇城市内



写真：関係機関との会議・行政との調整の様子

- 宇城市の保健福祉センター（本部移転候補地）を確認し、社会福祉協議会・ボランティアセンター等との連携状況を把握いたしました。
- 宇城圏域 WEB 会議に参加し、本部へ現状を報告いたしました。
- 宇城市福祉避難所担当課との連絡経路を確立し、行政との連携を強化いたしました。
- 保健所・保健福祉センターとの会議を継続して開催いたしました。

活動 ③ SECTION 06

本部移転による運営環境の改善

8/3 ～ 8/5 ／ 広域連合施設







写真：新本部での活動、本部運営の様子

- 宇城保健所内 DMAT 本部の執務スペース不足および冷房故障が、本部機能に影響しておりました。

- 宇城市等と調整のうえ、広域連合施設 2 階への本部移転を決定いたしました（応急対応としてスポットクーラーを配備）。

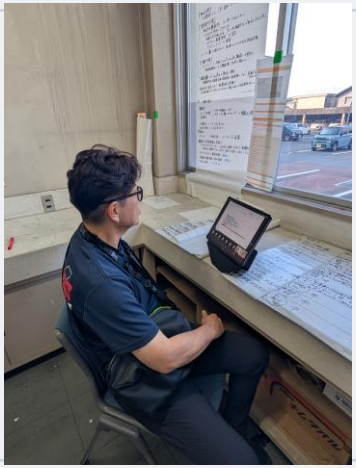
- 移転後は本部活動環境が改善し、本部運営を安定的に継続することができました。

保健所主導への移行と会議体の整理

8/5 〜 8/6 ／ 宇城保健所







写真：保健所との合同ミーティングの様子

- DMAT活動拠点本部の活動を、宇城保健所へと段階的に移行いたしました。
- DMAT 主体の運営から、保健所・市町村・DHEAT 主体の「地域保健医療福祉調整体制」への移行を支援いたしました。
- 保健所ミーティングおよびDMAT本部間ミーティングにて、DHEAT JMAT 日本赤十字社 DPAT DWAT JRAT JDAT JDA-DAT ACT PWJとの調整事項を確認いたしました。

後任への引継ぎと撤収

8/7 〜 8/8 ／ 宇城保健所



写真：引継ぎ・撤収、帰岡の様子

- 後任コーディネーターへ、未解決事項・関係機関との連絡経路・会議体・本部運営上の課題を明文化して引継ぎいたしました。
- 8月8日、宇城保健所へご挨拶のうえ帰岡。
- 同日 19:30、岡山赤十字病院に到着し、任務を完了いたしました。

岡山に還元したいこと

提言1：圏域本部の運営パッケージ化

会議体、役割分担、連絡経路、記録様式を標準化し、訓練で使える形にする。

提言2：本部移転を含む環境整備

スペース・電源・通信・PC・冷房・トイレを、本部機能維持の必須条件として事前確認。

提言3：データで支援漏れを減らす

J-SPEED、D24H、診療所・病院調査を組み合わせ、避難所・施設・地域医療のニーズを継続把握。

9

岡山で起きたら：DMATの初動力を、保健所・市町村が継続できる地域調整体制へ早く橋渡しする。

謝辞：熊本県庁、宇城保健所、宇城市、関係医療機関・支援団体の皆様に深謝いたします。

課題

情報	J-SPEED・D24H・診療所/病院調査を継続し、支援の重複・漏れを防ぐ必要
指揮	市町レベルでは連絡経路、会議目的、参加者、司会の整理が不可欠
環境	執務スペース・通信環境・PC・冷房など本部機能を支える基盤が不足
移行	急性期DMAT主体からDHEAT・保健所・市町村主体への段階移行
引継ぎ	未解決事項、連絡経路、会議体、本部課題を明文化して共有

10

次に同じことが起きたら

本部立ち上げ時から「場所・通信・会議体・データ入力・後任への引継ぎ様式」をセットで準備する。

今後の活動につなげるためのポイント

次期派遣・体制整備への示唆

① 連絡経路の早期確立

保健所・市町村など地元行政との連絡経路を早期に確立し、定例会議の目的・参加者・司会を整理する。

② 執務環境の確保と早期判断

執務スペース・通信環境・PC 等を確保し、早期の本部移転を判断する（1週間で本部移動が3度）。

③ ニーズ把握の継続

J-SPEED によるニーズ把握と D24H による環境把握を継続し、支援の重複・漏れを防止する。

④ 調整窓口の明確化

社会福祉協議会・ボランティアセンター・民間支援団体等との調整窓口を明確化する。

⑤ 地域主体への段階的移行

急性期から亜急性期への移行に合わせ、DMAT 主体から DHEAT・保健所・市町村主体へ段階的に移行する。

⑥ 引継ぎの明文化

後任へ、未解決事項・連絡経路・会議体・本部運営上の課題を明文化して共有する。

SECTION 10

結 び



宇城圏域におきましては、急性期支援から地域主体の保健医療福祉調整体制への「つなぎ」を担わせていただきました。

「おかやまDMAT」として、今後も県内災害医療体制の充実、隊員の育成・訓練の継続に取り組んでまいります。

末筆ながら、熊本県をはじめ関係機関の皆様のご支援・ご協力に、心より御礼申し上げます。

うまくいったこと・工夫

1. 連絡経路の早期確立

・保健所・宇城市・福祉避難所担当との窓口を明確化
・社協・VC・支援団体との調整先を整理

2. 会議体の整理

・定例会議の目的・参加者・司会を整理
・活動拠点本部ミーティングを保健所主導へ移行

3. 本部環境の改善

・スペース不足・冷房不良への対応
・広域連合施設2階へ移転し運営を改善

13

工夫の軸：DMAT主導の「応急運営」から、地元主体の「継続できる運営」へつなぐ